



年間第 33 主日 (マルコ 13:24-32)

人の子が戸口に近づいていると悟りなさい

今週、「年間第〇〇主日」を聖書と典礼に印刷する最後の週です。そして来週は「王であるキリストの祭日」を迎えます。ただ年間としての来週は第 34 週です。王であるキリストの祭日をいよいよ迎えるに当たり、イエスの言葉はこれまでの信仰の歩みの総決算が近づいていると知らせています。

「あなたがたは、これらのことが起こるのを見たら、人の子が戸口に近づいていると悟りなさい。」(13・29) イエスの言葉に何を感じるか、あなたが感じた印象は大丈夫なのか、考えてみることにしましょう。心に感じたことが正しければ安心できます。心に感じるものが正しくなければ、王であるキリストの祭日までに急いで修正しなければなりません。

土曜日に、お告げのマリア修道会のシスターが 9 人、まとめて訪ねてきました。いろいろ役職に就いていたのではないかというような人たちがずらっと玄関に挨拶に来たので何事かと思いましたが、「私たちはお告げのマリア 29 回生です。昨年奉献生活 50 周年を迎え、一年遅れですが教会巡礼をしている途中です」と話しておりました。

「おー、50 歳になりましたか」と、ひとまず「よいしょ」したら会話が弾みました。驚いたのは、入院している 1 人を含め、同期で入会した 10 人全員が奉献生活 50 周年を迎え、1 人も欠けていない、と言うのです。不摂生極まりない私たち司祭だとそうはいかないと思います。50 周年を迎えられず、欠けてしまうことは大いにあり得ます。さすが、「清貧」の誓いを立てているだけのことはあるなと感心しました。

もう一つ私は声をかけました。「責任者とか役職とか、いろいろ重たい荷物はもう降ろしたのですか？」すると何人かが「いえ、まだ背負子に背負っております」と言ってお互いに笑いました。この境地に達すると、「あなたがたは、これらのことが起こるのを見たら、人の子が戸口に近づいていると悟りなさい。」(13・29) この言葉は自分たちの救いが近いと知らせているのだと心躍らせるのではないかと思います。

「人の子が戸口に立っていると悟りなさい。」私はまだこの言葉に心が躍る、そういう境地に達していません。例えば玄関のチャイムが鳴ると、「人の子が戸口に立っている」など頭の隅にもなくて、「誰かい？もう忙しいのに・・・」なんて思うことすらあります。

司祭館のチャイムが鳴る時はそれ相当の用事のはずです。しかし喜びながら玄関に行くことはまずない・・・かなあ。玄関越しに見えるシルエットで、誰なのか、どんな用事なのかをおおよそ見当付けて顔を整えて「おまたせしました」と応対しているのが正直なところでは。

しかし人によっては、すばらしい心構えの人もいます。病人訪問で訪ねている人たちなど、前の日から、入念に準備をして待ってくださっています。聖体を運ぶ司祭を心待ちにして、ときには赦しの秘跡の準備

をして、その日に備えています。こうした人にとって、戸口に近づいてくるその人は、イエス・キリストの喜びを届けに来る人なので、心躍らせるわけです。

私たち一人一人に当てはめてみましょう。私たちのもとにも、イエス・キリストは戸口に立つことになります。私たちの生活が、しばしばイエス・キリストに背を向ける日々であったなら、戸口に立つ人はまるで逮捕令状を持ってやって来た人のように思えるでしょう。私たちが何を言おうと、すでに逮捕令状が出ていれば逮捕されます。逮捕され、起訴されて、裁判を受ける。イエスキリストに背を向けた日々を送る人にとって戸口に立つイエス・キリストは審判者です。

私たちの生活が、イエス・キリストを家に迎え入れる生活の積み重ねであったなら、家の戸口に立つ人はきっと私たちに幸せをもたらす人です。「それらの日には、このような苦難の後、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は空から落ち、天体は揺り動かされる。」(13・24-25) 信仰が無駄に思えるようなことを体験しても、気を落とさずイエス・キリストはそばにいてくれると信じて日々を送る。そうすれば、最後に戸口に立ってくれるのはイエス・キリストなのですから、心躍る人が戸口に立っているはずです。

来週は王であるキリストの祭日です。この日にミサに参加する人は、いわば王であるキリストの前に立つ人です。イエス・キリストが審判者に見えるか心躍る人に見えるか。それは私のこれまでの生活にかかっています。

少なくともあと一週間あります。もちろん、来週のミサに背を向けることもできるでしょう。田平教会の家族はそんなことはしないと信じています。六年間、ミサに集まる皆さんに説教し続けてきたことは無駄ではないはずです。来週、心躍る人の前に立つ。そのつもりでこの一週間で過ごしましょう。

王であるキリスト(ヨハネ 18:33b-37)